

二〇二二年一月三〇日 《年齢とって品を増す人落とす人》

あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。

(マタイ六・19～21)

上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。

(コロサイ三・2、3)

品位、品性、品格は、誰にとっても大切です。損得で得をしながら品位を下げた時には後悔します。逆に損をしてまで品位を保つことが出来れば、ある程度は誇りを感じます。浅ましいやりかたでも得をしようとすると人はいますが、そういう人に品位を指摘すると怒るでしょう。厭なことを指摘されたからで、品位を落とすことを喜んではいないのです。

ただし若い人は、競争社会で勝ち抜くためには品性を犠牲にしなければならぬ時もあるかもしれません。それでもさもしく卑しく何かを手に入れるのでは、何を手に入れても、勝った気がしません。そのために若者たちは迷いながらも勝負にいそしみます。迷いながら何が本当の勝利か考えることは、若者の正しいありかたでしょう。

年齢とともに、やがては死を自分のこととして考えるようになる。死を意識する時、生きかたは損得や勝敗から品性に変わって行きます。

たとえば、交通事故で車にはねられて、歩行者が駆け寄ってくれた時です。若者なら「金持ちになりたかったんだ」で良いでしょう。しかし良い大人が「俺は東大出なんだ、頭良かったんだ」とか「金持ちなんだぞ」では、余りにも情けない人生です。普通は「私の家族に『愛している』と伝えてください」と言って死にたいでしょう。ただ「家族に…」と言う前に一言、駆け寄ってくれた人に感謝を伝えることが出来たら、それが人の品性というものだと思います。そうした品性を、交通事故に遭う前から持っていたいものです。

高度な文化や芸術を知っていると品があるように言われますが、文化や芸術のセンスと品性は別です。自分が芸術を楽しむのは品性ではなく、ただの趣味です。しかし自分は理解できなくても、人が楽しんでるのを見て人の喜びを感じ取るのは品性です。人を理解できるから、事故で駆け寄ってくれた人に「ありがとう」と感謝できます。

してみると、品性とは愛と感謝と他者理解のようです。それらは「上にあるものに心を留めなさい」とある通り、地上にありながらも天上のものとの係わりがあるのです。

私たちの「命はキリストと共に神の内に隠されている」とある通り、実際の生きかたが正しいかどうかは、分かりません。ただ分かっている大事なこと・尊いことは、生涯追い求め続けたいものです。本当に天に富を積んでいるかは分からない。そういう謙遜な思いをもちつつ、それでも「天に富を積もう」と決意し、それをおおやけに言い表したのが私たちクリスチャンです。